

河昌通信

昌治

たるんお方の時代から続く毎年の恒例行事がいつまでも尽全力で話されています。ねなばと、改め思れつかさ

昭和の時代から続く毎年の恒例行事がいつまでも尽全力で話されています。ねなばと、改め思れつかさ

暖かくなつてきたとともに、あちこちで花の蕾が膨らみ、新芽が伸び・・・良い季節になりました。今年は、寒い時間が長かつたので、喜びもひとしおです。

お変わりなくお過ごしでしょうか？

陽気に誘われて、外出する機会も増え、お店もお忙しくされていることと思います。



2012年5月

第17号

発行:(株)河昌
文責:藤井潤子
須磨区松風町
5-1-22
☎078-733-0791

「夫婦50割」が使える歳になつて、最近行く機会が増えました(笑)。

東京でリストラされたみのりが、大分県の白杵のお茶農家のおじいちゃんを訪ね、たまたま倒れたおじいちゃんに代わり、色々な人たちに助けられながら試行錯誤を繰り返しつつ、見事におじいちゃんが言えます有行機栽培のお茶の葉を作り上げる・・・簡単に言えばそんな話です。

【映画】種まく旅人～みのりの茶

三五月のお休み
お電話は九時から十七時三〇分まで
ゴールデンウイークに入ります。
それ以外の時間は留守番電話がお受けします。

料水銀

吉

お茶は毎日、葉っぱにお湯を注いで飲むわけですが、農薬を使つていらないものが良いに決まっています。からでも、害虫や病気、雑草・・・有機栽培にかかる手間隙(ひま)は半端ではありません。そして、お茶は栽培だけでなく、単なる葉っぱから、いわゆるお茶の葉に仕上げる工程も、湿度や天気などを考えなければ美味しいお茶の葉に仕上がるはず大変です。そんな四苦八苦の中、みのりは悩むわけですが、「飲む人を思い浮かべて作る」と言う言葉がでてきたのが、とても印象に残りました。



3月17日(土)全国ロードショー